

4.7 イベント 「共謀罪は私たちの表現を奪う」

3月21日の閣議決定に抗議し、表現者として、共謀罪そしてその先に来る監視社会に、「NO」を宣言します。

発言（敬称略）：

浅田次郎（作家、日本ペンクラブ会長）

雨宮処凛（作家）

内田麟太郎（絵本作家、日本児童文学者協会理事長）

江成常夫（写真家）

香山リカ（精神科医・作家）

田近正樹（日本雑誌協会人権・言論特別委員会、日本書籍出版協会出版の自由と責任に関する委員会）

ちばてつや（漫画家）

中島京子（作家）

ビッグ錠（漫画家）

森絵都（作家・日本ペンクラブ常務理事）

森達也（作家・映画監督）

山口勝廣（写真家、日本写真協会専務理事）

他

司会：山田健太（日本ペンクラブ常務理事・言論表現委員会委員長）

日時：2017年4月7日（金）午後6時半から8時半

場所：文京区シビックセンター 小ホール

参加費：1000円

当日先着順：事前申込不要 定員 325名

政府は「共謀罪」について、テロリストを捕まえるためのもので、「一般人」には関係ない法律だと言っています。そしてオリンピック開催のためにはテロ対策として、どうしても必要だと繰り返しています。

でもこれまで「共謀罪（テロ等組織犯罪準備罪）」は3度にわたって国会に上程されながら、いずれも廃案になった経緯があります。そこからは、編集会議で「徹底取材」を確認し、嫌がる政治家をしつこくコメントを求めることまで、罪の対象になる可能性が見えてきます。

しかも、疑わしいだけで、しかもその基準もあいまいで警察の恣意的な判断の下で、検挙され身柄が拘束されることになります。

さらにそのためには、日常的に電話やメールを盗聴するなどして証拠を集めることが必要で、そのために法改正がなされ、その結果、自分たちが知らないうちに、取材過程が監視されることになりかねません。

言論・表現活動に携わる者として、共謀罪が取材・報道の自由とどのような影響があるのかを改めて確認し、同時に、昨今の《言論萎縮状況》にいかに向かかっていくかを語り合う、元気が出る会にしていきたいと思えます。



主催：一般社団法人日本ペンクラブ
問い合わせ先：info@japanpen.or.jp

